



紀伊半島から新種、クマノザクラを発見 —観賞用の桜として期待—

- ・ 紀伊半島南部に未知の野生のサクラが分布していることを確認
- ・ 国内の野生のサクラとして、およそ100年ぶりに新種の学名が発表される予定
- ・ ‘染井吉野’に代わる新たな観賞用樹木として期待される

概要

国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所（以下「森林総研」という）は、和歌山県林業試験場（以下「和歌山県林試」という）と共同で、紀伊半島南部（奈良・三重・和歌山県）に新種の野生のサクラが分布していることを確認しました。このサクラは、同地域に分布するヤマザクラやカスミザクラと似ており、これらの種とこれまで区別されていませんでした。しかし、森林総研の調査によって、花や葉の形態や開花期が異なることから、これまで報告されている種と区別されることが示されました。そこでこのサクラをクマノザクラと命名し、新種としての学名を学術誌に発表する準備を進めたところ、日本植物分類学会が発行するActa Phytotaxonomica et Geobotanica誌に論文が受理され、69巻2号（2018年6月下旬発行予定）で公開されることになりました。また、森林総研と和歌山県林試は、高い観賞価値を有することへの期待から、高品質なクマノザクラの種苗普及を計画しています。

背景

バラ科サクラ属（*Cerasus*）の樹木は、日本に9種が自生するほか、‘染井吉野’（*C. xyedoensis* ‘Somei-yoshino’）をはじめ数多くの栽培品種があります（*1）。森林総研では、こうしたサクラ類の分類体系を再構築するため、野生種についても詳細な変異を明らかにする研究を進めています。ところが、2014年に発表した森林総研などによるヤマザクラ（*C. jamasakura*）などの遺伝的変異の調査において、既存の種と異なると思われる標本が紀伊半島から確認されました。西日本のヤマザクラは変異が大きく、紀伊半島に地域変異が生じている可能性があります。また、サクラ類は観賞価値が高ければ、新たな資源として利用することも期待できます。そこで、紀伊半島で現地調査をおこない、不明なサクラの詳細を明らかにしました。

内容

2016～2017年に、森林総研と和歌山県林試が共同で現地調査をおこない、分布しているサクラの特徴を明らかにしました。その結果、自生しているヤマザクラとカスミザクラ（*C. leveilleana*）のほかに、これらと区別されるサクラがあることを確認しました（図-1, 2）。このサクラの特徴は、花序柄が短く無毛（図-3）、葉身がヤマザクラ・カスミザクラよりも小さく卵形でした（図-4）。また、開花期はこれらより早く、重なりませんでした（図-5）。分布域を調査したところ、熊野川流域を中心としたおよそ南北90km、東西60kmの範囲に多数の野生個体があることが、確認されました（図-6）。こうした特徴を検討した結果、

これまで発表された既知の種とは異なる新種（*2）と判断し、和名をクマノザクラとする学名を命名しました。学名は、日本植物分類学会が発行する *Acta Phytotaxonomica et Geobotanica* 誌 69 巻 2 号で、2018 年 6 月下旬に公開されることになりました。1915 年にオシマザクラの種名が発表されて以来、サクラ属ではおよそ 100 年ぶりの新種の発見となります。

今後の展開

サクラ属の樹種は、その系統関係が明確にされておらず、特に東アジアにおけるヤマザクラ類は、分類学的な混乱が生じています。クマノザクラを含めた遺伝学的な検討により、これらの系統関係を明らかにしていく予定です。また、クマノザクラの中には、観賞価値のきわめて高い個体の存在が確認されています(図-1, 2)。そこで、森林総研と和歌山県林試では、共同で優良個体を選抜し、増殖方法を確立するとともに、病害への抵抗性の検定をおこなうことで、高品質なクマノザクラの種苗の普及を計画しています。

論文

タイトル : A new species, *Cerasus* sp. from the southern Kii Peninsula, Japan (紀伊半島南部から報告された新種クマノザクラ)

著 者 : Toshio Katsuki (勝木俊雄・森林総合研究所)

掲 載 誌 : *Acta Phytotaxonomica et Geobotanica*、69 巻 2 号掲載 (2018 年 6 月下旬発行予定)

共同研究機関

和歌山県林業試験場

用語解説

* 1 種と栽培品種

野生植物への基本的な分類単位は種 (species) であり、その学名は国際藻類・菌類・植物命名規約 (International Code of Nomenclature for algae, fungi, and plants; ICN) によって定められています。一方、栽培植物の分類単位は栽培品種 (cultivar) で、その学名は国際栽培植物命名規約 (International Code of Nomenclature for Cultivated Plants ; ICNCP) によって定められています。

* 2 新種

森林総研はクマノザクラを新種と判断しました。しかし、日本植物分類学会は、学会誌に掲載する論文を受理したに過ぎず、学会として認定する制度はありません。植物分類学者が検証しながら合意していくことによって、新種として広く認められることとなります。

お問い合わせ先

研究推進責任者 : 森林総合研究所 研究ディレクター 堀 靖人

研究担当者 : 森林総合研究所 多摩森林科学園 サクラ保全担当チーム
チーム長 勝木俊雄

和歌山県林業試験場 経営環境部 田上耕司、法眼利幸

広報担当者 : 森林総合研究所 広報普及科広報係

Tel : 029-829-8372 E-mail : kouho@ffpri.affrc.go.jp

和歌山県農林水産部農林水産総務課研究推進室

Tel : 073-441-2995 E-mail : e0701003@pref.wakayama.lg.jp

本資料は、林政記者クラブ、農林記者会、農政クラブ、筑波研究学園都市記者会、奈良県政記者クラブ、三重県政記者クラブ、和歌山県政記者クラブに配付しています。

図、表、写真等



図-1. クマノザクラの樹形



図-2. クマノザクラの花



図-3. ヤマザクラ(左)とクマノザクラ(中)、カスミザクラ(右)の花序(赤丸が花序柄)

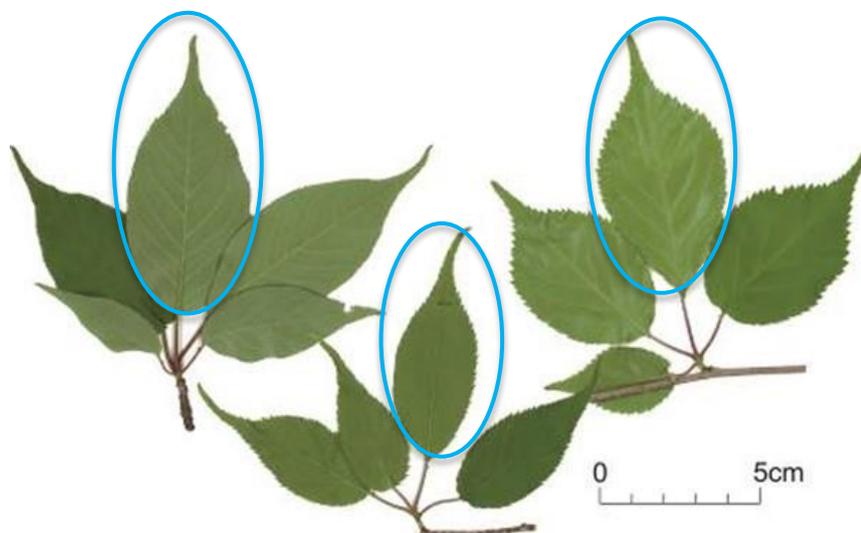


図-4. ヤマザクラ(左)とクマノザクラ(中)、カスミザクラ(右)の成葉(青丸が葉身)

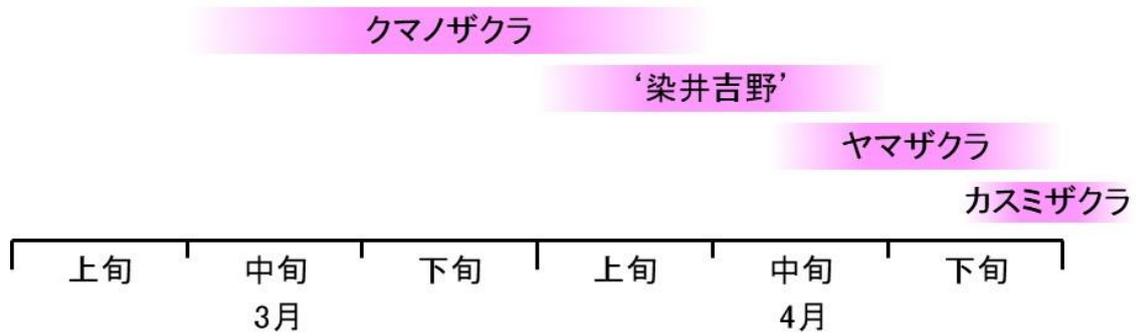


図-5. 和歌山県古座川町におけるクマノザクラとヤマザクラ(自生)、「染井吉野」とカスミザクラ(植栽)の2017年の開花期



図-6. クマノザクラの推定分布域